

被災地を巡って

ご存知の通り、三陸海岸はリアス式海岸と呼ばれ、大小の入り江や湾が存在し、その入り江の一つ一つに大きな街や小さな集落ができています。

今回、国道45号線を石巻から小本まで巡る機会に恵まれました。一つの入り江から次の入り江まで行くのには、大なり小なり峠があり、海が見えると平地が広がり家々が見えてくる。

45号線はそんな風景の繰り返しです。平地の集落(だだっと思われる所)には、平穏で何気ない日常があったのでしょうか。跡形のない場所に立ってふと見ると茶碗の欠片が転がっていたりします。

まぎれもなくあったはずの日常が今はない。新聞やテレビでは感じることでできない生の現実がありました。

7ヶ月を経た今でも、現実には悲惨さを感じさせるには充分でした。

しかし、新たな日常を作り出すと前へ進んでいることも確かです。何かお役に立ちたいと想いを新たにさせられた日です。



気仙沼 大型船

海から500m程の所まで運ばれた船こうなると解体するしかないのか。それにしても津波のエネルギーはすさまじい



高田松原 一本松

津波に耐えた一本松 手厚い保護がなされているのだが...



田老 観光ホテル

1.2階は破壊されたが倒壊流出をまぬがれた。現状保存の声もあるようだ



気仙沼 主を待つ

がれきの中から誰かが分けて置いたぬいぐるみとネックレス 持ち主は現れるのか...



石巻市雄勝公民館

2階屋上に上がった観光バス 未だに撤去されずにいる

フクタニニュース

発行



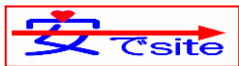
(株)フクタニ

砕石部

珍名 AGAIN

また名字の話。先日電話で打ち合わせし、最後に『失礼ですが、名前を伺ってもよろしいでしょうか?』と問うた。『はい、コンマンと申します。』コンマン?ケニア人?・即座に文字が思い浮かばない。『金万』と書くそうだ。最近、暗い話題が多い中、なんと景気のいい苗字であろうかと明るい気分で電話を切った。

それにしても日本には苗字の数が多い。防衛大校長は五百旗頭真氏という方である。なんと勇ましく防衛大にはふさわしいのだがとても正しくは読めない。苗字には歴史や文化が詰まっている。苗字の多さは多様な文化の表れなのかもしれない。



「ずり」について



三省堂 大辞林によると『ずり』とは、『鉱石や石炭とともに掘り出された石。また、選鉱、選炭した後に出る廃石』とある。採掘の目的となる鉱物や所定の品質の岩石以外の物、製造管理されて商品化されていないものを総称してずりと呼ぶ。しかし、ずりは地域ごとに〇〇ずり、××ずりと用途に応じた名前がつけられ、造成盛土材、道路盛土材、寒冷地では、凍上抑制材など基礎材として相当量が幅広く使用されている。だがしかし、オールジャパンの規格が存在しないため、用途もそれに伴う要求品質も価格もあいまいである。工業製品である砕石よりは安いだろう程度となる。

”ずりは廃石である”という定義で、流通が成り立ってほしいのだが、ズリの供給を目的として採掘するのでは定義が成り立たない。あいまいなものを使用して所定の物を作るには細心の注意が必要だと思うのだが。

熊肉



浄法寺の人から熊肉を頂いた。マタギ(狩猟)の免許を持った人の獲物で合法的な自然の恵みである。肩肉(と言っていた)2ブロックを一つは冷凍し、一つはぶつ切りにしてアク抜きし野菜と一緒に味噌煮込み風にしていただいた。野生の味がした(固い)。

後で熊肉料理をインターネット検索したらわりと色々レシピが出ていた。何ごととも段取りが八分なのである。

冷凍したもう一つの肉は、沿岸被災地の砕石屋さんに贈った。かくかくしかじか、こんな風にしていただいたことを伝え、食べたらご感想をお願いしてきた。

数日後、写真添付のメールが送られてきた。そこには格調の高い熊肉鍋の写真!旨味が写真から出てきそうである。浄法寺の熊も三陸海岸に行って食卓に華を添えたのだから本望であろう。



被災地砕石屋さんコメント:

牛タン屋のテールスープの肉の味に似ている。ちょっと臭みがあり、始めて食べる不安感があった(笑)

編集後記

ニュースの中の『珍名』に出てくる防衛大の校長先生のお名前『五百旗頭真氏』...読めますか?

正解は↓に